

だい き やま と し た ぶん か きょうせいかい ぎ だい かい かい ぎ ろく ようやく
第3期大和市多文化共生会議 第2回会議録(要約)

にち じ ねん がつこのか ど
日時: 2013年3月9日(土) 14:00~16:00

ば しょ やま と し やくしよぶんちようしゃ かい かい ぎ しつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき い い ん あ ら い ま さ の り い し ま い と う ひ る こ い と う も と み お か ざ き
出席: 委員(新井政則、石間フロルデリサ、伊藤裕子、伊藤素美、岡崎チャー
メイン、小林ホルヘ、紺野勝、ファン チィ フォン、宮嶋耕治、山田
ち ょ ん あ し み ず む つ み やま と し こ く さい だ ん じ ょ き ょ う ど う さん か く
静娥)/ファシリテーター(清水睦美)/大和市国際・男女共同参画
か ぶ な こ し え い い ち こ う え き ざ い だ ん ぽ う じ ん やま と し こ く さい か き ょ う かい く ま が い が お る た な か ひ る こ
課(船越英一)/公益財団法人大和市国際化協会(熊谷薫、田中弘子、
こ に し え り こ い し か わ か ず と も い じ ょ う め い け い し ょ う り や く
小西永里子、石川和友) 以上17名(敬称略)

い し ょ く じ ょ う こ う ぶ
1 委嘱状交付

こ う え き ざ い だ ん ぽ う じ ん やま と し こ く さい か き ょ う かい ぜ ん かい け っ せ き い い ん い し ょ く じ ょ う こ う ぶ
公益財団法人大和市国際化協会から前回欠席した委員に委嘱状を交付した。

だい き た ぶん か きょうせいかい ぎ ていげん
2 第2期多文化共生会議の提言について

はい ぶ し り ょ う も と だい き た ぶん か きょうせいかい ぎ ていげん せつ
配布資料に基づき、ファシリテーターから第2期多文化共生会議の提言について、説
めい あ と が い こ く じ ん ひ な ん ば しょ さい が い た げ ん こ し え ん は な あ
明した。その後、外国人の避難場所や災害多言語支援センターについて話し合ったこと
を以下の通りまとめた。

ひ な ん ば しょ こ り つ が い こ く じ ん
避難する場所と孤立する外国人

- 委員(フィリピン): 外国人は防災訓練を受けた経験が全くない。外国人はそれぞれ
避難場所に行くより、とりあえず多言語支援センターのような場所に集まる方がいい。
- 委員(韓国): 外国人の中でも子どもがいたり、自治会に入っていたりすると、地域と
何らかのつながりがあるが、災害発生時にはどうしても孤立する外国人が出てくる。災
害が起きたときに市が何をするのか、といったことをもっと多くの外国人に PR した方が
いい。
- 委員(日本): 新潟の中越地震のときに、ベトナム人に一人ずつ電話をしたところ、名
簿にあった連絡先のうち、半分くらいの人と電話が繋がったが、自治会にも入ってい
ないので孤立していた。孤立した人は職場から情報を得ていた。アパートを借りていれ
ば、家主が情報源となる。コミュニティに入っていない人にとっては、いろいろなところ
から情報を得ることが大事になる。
- 委員(韓国): 外国人がよく利用するお店も情報が得やすい。外国人に知らせたい
情報を外国人が利用する店においてもらってはどうか。
- ファシリテーター: 情報を知らせることは大前提だが、その前にどういった避難所をつ

- くったらいいのか、地震が起きたらどこにいればいいのか、その場所のことを考えたい。
- 委員(日本): 情報は外国人が集まりやすいコミュニティに発信すればいいと思う。外国人はどこから情報を得たいと考えているのか。職場か、それとも学校か。それを外国人に聞いてみてはどうか?
 - 委員(フィリピン): その考えはすごくいいけれど、外国人はどうしたらいいのかわからないと思う。いろいろな国の人が参加するグループをつくって、情報を提供したい。
 - 委員(日本): 外国人たちが集まりやすい場所がどこか知りたい。
 - 委員(韓国): 同じ韓国から来ている人がどこにいるのかさえわからない。他の人から聞かれたりするが自分自身もよくわからない。
 - 委員(ベトナム): 例えば、市役所の本部のそばに外国人の支援センターを設置する、などとあらかじめ決めておいた方がいい。場所をはっきり決めておいてもらって、事前に知っておかないと、災害があったときにどこに行ったらいいのかわからない。

災害多言語支援センターの役割

- ファシリテーター: 例えば、困りごとなど(コミュニティから得られる)日常的な情報と、緊急事態が発生したときの(市役所から得られる)緊急の情報を区別して考えてはどうか。外国人が行きやすい場所をつくることは大切だが、例えば市の支援物資は、市が把握している場所にしか届かない。外国人が困ったら、すぐに聞けるところが必要。多言語で情報を発信する核になるセンターが必要ではないか。
- 委員(日本): 多言語の核になるセンターがどこなのかを、外国人に知らせる存在として、コミュニティが必要になると思う。
- 委員(日本): 外国人のグループやお店などを通じて安否の確認など連絡が取れる外国人は大和市の中にどのくらいいるのだろうか。そのセンターがあったとしても、どのくらいの人助けになるのか。それさえもわからない人にはどうやって届くのか。
- 委員(日本): 市内のカンボジア人は175名いるというが、在日カンボジアコミュニティでは、市内のカンボジア人のうち、2名の居場所しか把握していない。
- 委員(日本): どうやったら情報が伝えられるのか、という話の前に、災害多言語支援センターをどこに作るかということを決めることが肝心。
- 委員(日本): 最終的に、どれだけ多くの人に連絡がいて、安全なところに避難させることができるのかということが目標だ。多言語支援センターや防災マニュアルなどはそのために活用されるものと思う。
- 委員(日本): 支援センターの役割は、情報を多言語にして正確に伝えること。ただし、大きなコミュニティ(マジョリティ: 多数派)に届いても、小さなコミュニティ(マイノリティ:

- 少数派)にどうやって届けるのか、という問題が出てくる。
- 委員(フィリピン):今話し合っていることは、どこに多言語支援センターを作るか、ということでは間違いないか。
 - 委員(日本):まず形を作ってから話になる。例えば、多言語支援センターを作った後、どうすればいいのかという問題は、まずセンターを作ることによって生まれてくる。作った後で、交通整理しながら課題を集約して、問題を片づけていくことが正しいと思う。手順として、目的に向かっていく中で出てくる課題を一つひとつ解決するのがいいのでは。
 - ファシリテーター:多言語支援センターができるとしたら、どんな役割が必要なのか。
 - 委員(日本):センターは災害発生時につくられるもので、日常的には存在しない。センターをつくる人も被災したり、死亡したりすることがあり得るので、すぐにできないのではないか。
 - ファシリテーター:センターは災害時にすぐ作ります。
 - 委員(日本):(話は変わりますが)例えば、市役所から予防接種のような情報をどの程度、外国人に情報提供をしているのか知りたい。
 - 大和市:国際化協会でも4言語の情報紙をつくったり、行政の各機関で多言語化した情報を提供したりしています。市役所窓口や市立病院に通訳員を配置して情報提供をしている。日常生活における最低限の情報提供は行っている。
 - ファシリテーター:コミュニティの問題は下から積み上げて考える必要がある一方で、災害緊急時には上からの強いリーダーシップが求められる。どうやって防災のことを伝えていくのか。緊急時に何をしたらいいかわからない外国人がいるということが問題。ある程度のマニュアルがないと動くに動けない。
 - 委員(韓国):緊急時のマニュアルはとりあえずつくっておく必要がある一方で、孤立する外国人のためにも何か考えないといけない。この2つは分けて考えた方がいいかもしれない。
 - 大和市:多言語支援センターという建物が普段からあるわけではなく、「災害時につく」ことを理解することが大事だ。役割は大きく分けて2つあり、外国人に対する情報提供と、避難所を見て被災状況を把握すること。多言語支援センターには災害発生後、すぐに立ちあがり、県外からも多くのボランティアが入ってきてセンター内で活動するようになると思う。多くのボランティアをどのようにまとめていくか、受け入れ態勢を考える時期になっている。
 - ファシリテーター:仮にセンターが立ち上がるとしても、そのことを知らなければ誰も来ない。市は支援センターをつくることは決めている。しかし、その場所は決まっていな

- い。
- 委員(ベトナム): 支援センターが災害時にどこにあるのか分からなければ意味がない。支援したくてもできなくなる。
 - ファシリテーター: 今は会議室になってはいるが、災害が起きた後はこの建物(分庁舎)が多言語支援センターとなることとしてよい。この建物がだめだった場合のことはひとまずおいておきます。
 - 委員(日本): 第2期の提言の際には多言語支援センターの場所は、この建物(分庁舎)と決めていたのか。
 - ファシリテーター: すでに市に提言されているが、具体化は少しずつしか進まないのではっきりと決まっているわけではない。しかし、この会議の中で方向性を示せると思う。
 - 委員(ベトナム): 多言語支援センターは災害のときにできるものか。国際化協会は災害発生時にどう動くのか。
 - ファシリテーター: 災害のとき、国際化協会は普段の仕事はできなくなるので、多言語支援センターの仕事をすることになると思う。
 - 委員(日本): 大和市は地理的に南北に広がっているので、鶴間駅周辺の住民だと国際化協会でもいいのかもしれないが、南部のいちよう団地あたりからここまで来るのはすごく遠い。
 - 委員(日本): スマートフォンのおかげで、ラオス人もフェイスブックをつかっている。緊急時には、どこに支援センターがあるのか、ソーシャルネットワークを通じての情報提供が有効になると思う。東日本大震災のときもネット通信は大丈夫だった。
 - 委員(日本): どれだけの人に情報提供できるのかが重要なので、インターネットなどいろんなツールを使うことには大賛成。
 - 委員(フィリピン): 自治会に入っていない人や孤立している人もネットをつかって情報収集できる。
 - 委員(韓国): 外国人とつながりを持つ団体として国際化協会があげられるが、もう一つあってもいいと思う。基本的には、避難所の場所などの情報を求めると思う。
 - ファシリテーター: 多言語支援センターができる段階を考えると、まず緊急対策本部が立ち上がり、続いてできる組織の一つとして多言語支援センターも立ち上がる。
 - 委員(日本): 渋谷分室(IKOZA)あたりにも、センターが必要では。
 - 大和市: 実際のところ、センターの場所は、そのときどきによって決まると思う。
 - ファシリテーター: 前もってセンターの場所がわからないと外国人は困るのでは。
 - 委員(日本): 多言語支援センターの設置にむけて、どんな役割を担うのかをもっと深

- めて具体化していかないといけない。
- ファシリテーター：最後に自分の家に帰れず、避難所にいかないとならない場合のことを考えたい。日本人と外国人はまざったほうがいいのか？別々のほうがいいのか？
 - 委員(ベトナム)：まざっても大丈夫。
 - 委員(韓国)：別々にしなくてもいいのでは。
 - 委員(日本)：阪神淡路大震災の際にはベトナムや韓国・朝鮮の人が同国人でかたまるのではなく、日本人と一緒に避難生活を送ったそうだ。そこで日本語を学び出したということもあった。
 - ファシリテーター：もし自分が外国で災害にあったら、不安でたまらないので日本人とかたまりたいと思うが。
 - 委員(日本)：日本人のおばあさんが、外国人と一緒にいて良かったと思ったことがあったようだ。
 - ファシリテーター：しかし、その反対もないか。引っ込み思案な人だと逆に不安になる、とか。
 - 委員(フィリピン)：その場合にはセンターが必要ですね。
 - 委員(ベトナム)：外国人の中でも、私たちのように日本語を話すことができる人は大丈夫だけれど、慣れていない人はどうかと思う。
 - 委員(韓国)：確かに引っ込み思案な人で、日本語ができない人はだめかもしれない。
 - 委員(フィリピン)：ケースバイケースと思う。私たちのように日本のコミュニティに入っている外国人は日本人と同様の避難所にいくことになる。フィリピン人グループができていたら、そこにいかないといけないように思うが。
 - 委員(韓国)：外国人と日本人を分けることは必要ないのでは。
 - 委員(フィリピン)：外国人と日本人を分けるのは、新しい壁をつくるだけになってしまふ。
 - ファシリテーター：皆さんは日本語がすぐできるので大丈夫だけれど、来日1年目くらいの人だとどうだろう。
 - 委員(フィリピン)：言葉が分からない外国人には支援センターが必要。自分の経験では、日本人は困っている人に必ず手を差し伸べてくれるので安心している。
 - 委員(韓国)：そこまで準備できたら理想というか、それ以上はない。
 - ファシリテーター：今までの話をまとめると、地区ごとの避難所はそれぞれのルールで運営して、多言語支援センターでは各言語のグループをつくるのが重要という理解でいいか。
 - 委員(ベトナム)：しかし、多言語支援センターは外国人が避難する場所ではなく、あく

まで外国人を支援する人だけが集まる場所。基本的には避難する人を受け入れる場所ではないと思う。

- ファシリテーター：日本に長く住んでいる外国人は日本人と一緒にいてもいいことはわかったが、言葉の支援が必要な外国人はどこにいったらいいのか。第2期の提言では、多言語支援センターは避難場所ではないという想定だった。しかし、その想定にとらわれずに考えてもいい。また、国際化協会は緊急時に何ができるのか、考えておいてほしい。次回にそのようなことを話したい。

3 委員長、副委員長の選出

委員長 紺野さん
副委員長 宮島さん に決定

4 閉会

事務局から次回会議の日程5月25日(土)を伝え、閉会した。